

がん患者の情報収集に関する実態調査

可知 健太 前原 克章 柳澤 昭浩 川上 祥子 濱崎 晋輔
株式会社クリニカル・トライアル

背景

情報収集は、がん患者の重要な課題の一つであると言え、医療者からの情報提供の他、インターネットや患者交流など様々な手段がある。しかしながら、罹患者数が少ないほど、進行期ほど情報収集は難しいと予想される。しかしながら、がんサバイバーシップにおいて、予想と実態が乖離することは珍しくない。そこで、がん患者に対して情報収集に関する大規模実態調査を行った。

手法

1. がん患者およびその家族に対して、大規模なインターネット定量調査を実施し、1,385名の有効回答を得た。
(実施期間：2018年2月1日～2月28日)
2. がん患者576名に限定し集計した。
3. 年間罹患者数の多い部位のがん種（胃、大腸、肺、乳房、前立腺；本研究上、5大がんと定義）とそれ以外のがん、あるいはステージ1～3とステージ4で集計した。
4. 3においての比較をカイ2乗検定にて検討した。

※アンケート回答者は、がん情報サイト「オンコロ」にて募集した。



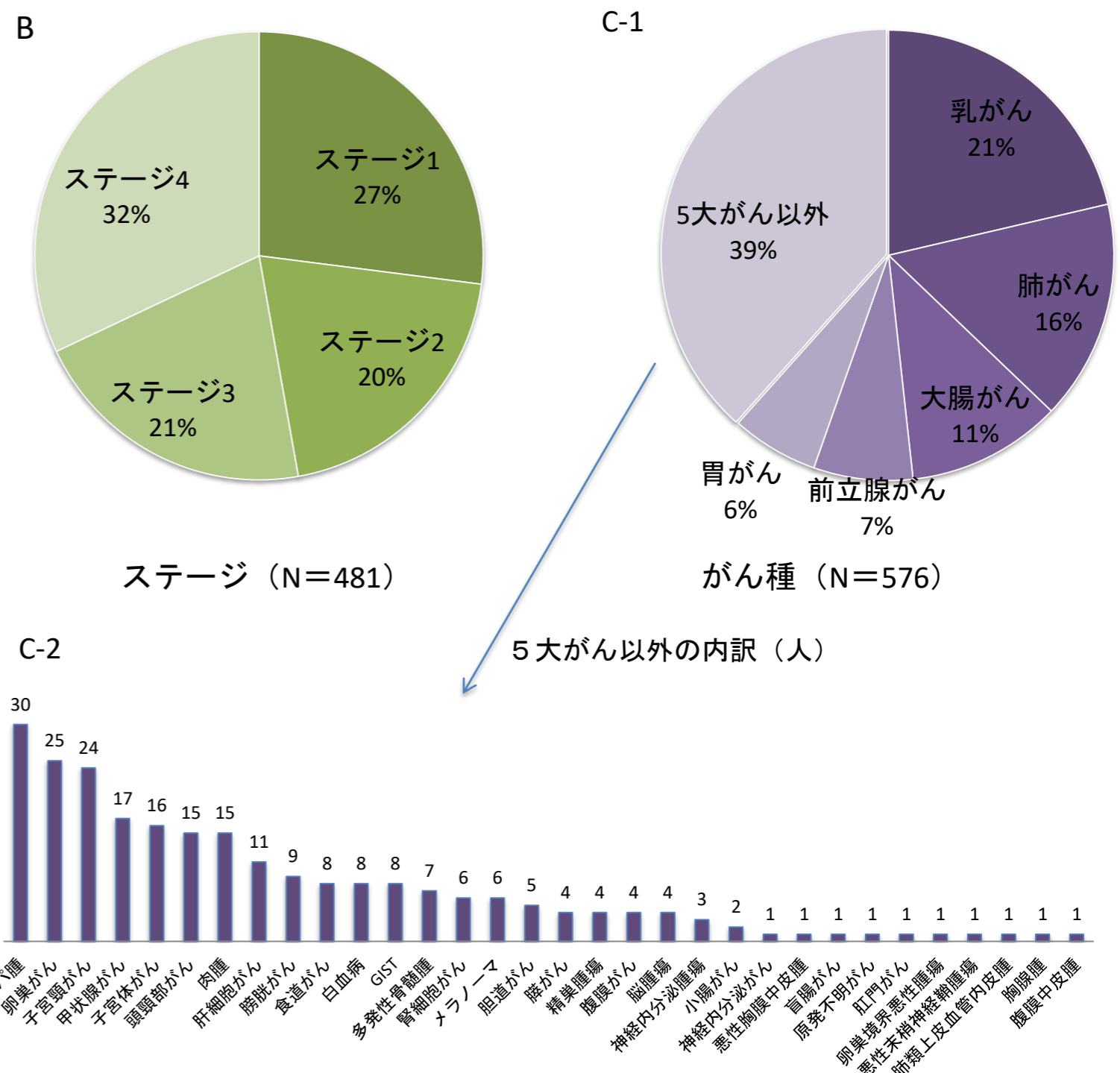
【アンケート質問項目】

- ・あなたの立場について教えてください。
- ・がんの種類を教えてください。
- ・がんの病期（ステージ）を教えてください。
- ・医師よりがんと診断を受けてから最初に提案をされた治療選択肢について当てはまるものを全て教えてください。
- ・最初の治療を行う前に医師から臨床試験（治験）に関しての情報提供はありましたか？
- ・治療を受ける前の医師の説明は十分であったと思いますか？
- ・あなたのがんの治療法は他のがん種と比べて十分にあると思いますか？
- ・あなたのがんの情報は他のがん種と比べて入手しやすいと思いますか？
- ・あなたのがんと同じがん種の方同士での患者会での交流や、インターネットでの交流は他のがん種と比べて活発であると感じますか？
- ・あなたのがんの治療環境は他のがん種と比べて良い環境であると思いますか？
- ・あなたの年齢について教えてください。
- ・あなたの性別を教えてください。
- ・現在、がんの治療または経過観察のために主に通院している病院について教えてください。
- ・上記で回答した病院はがん拠点病院ですか？

結果

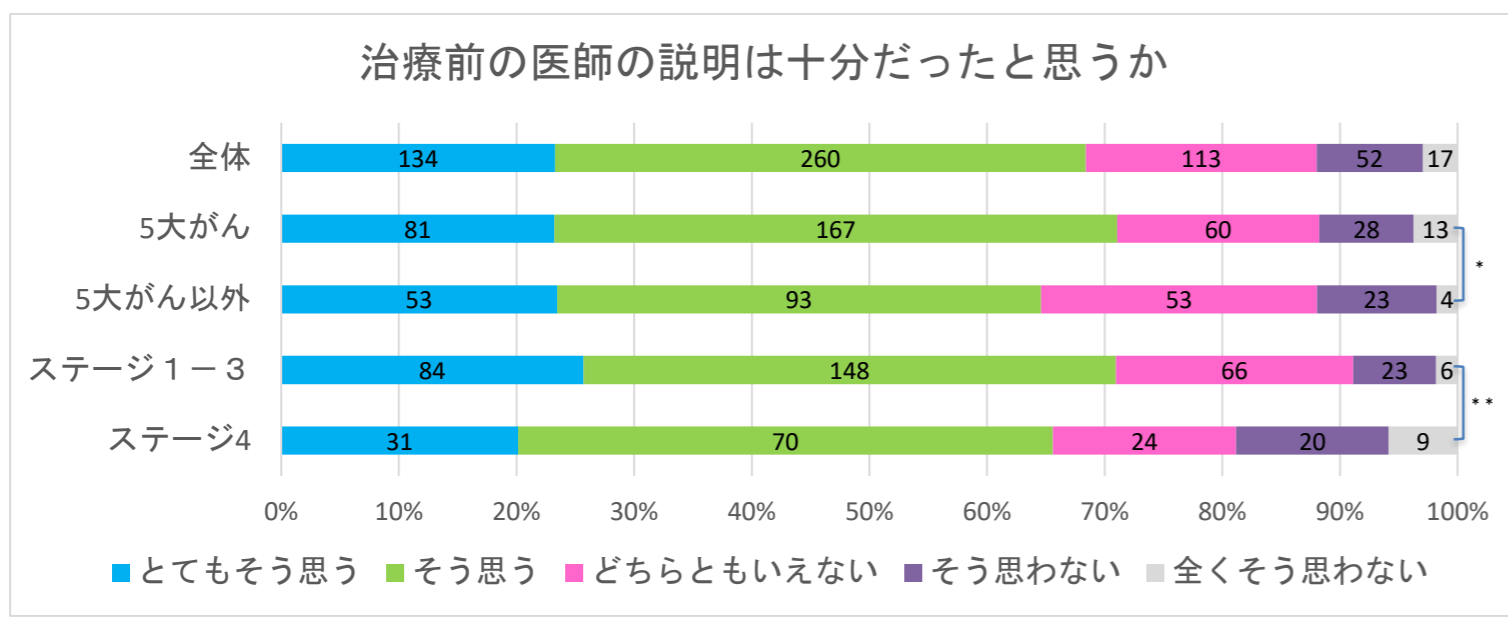
結果 1. 患者のステータス

A	項目	全体 546 (100%)	5大がん 349 (60.6%)	5大がん以外 227 (39.4%)	ステージI-III 327 (56.8%)	ステージIV 154 (26.7%)
年齢	29才以下	12 (2.1%)	3 (0.9%)	9 (4.0%)	7 (2.1%)	2 (1.3%)
	30代	38 (6.6%)	20 (5.7%)	18 (7.9%)	19 (5.8%)	13 (8.4%)
	40代	146 (25.3%)	84 (24.1%)	62 (27.3%)	87 (26.6%)	44 (28.6%)
	50代	199 (34.5%)	119 (34.1%)	80 (35.2%)	106 (32.4%)	60 (39.0%)
	60代	130 (22.6%)	83 (23.8%)	47 (20.7%)	77 (23.5%)	30 (19.5%)
	70代	46 (8.0%)	36 (10.3%)	10 (4.4%)	29 (8.9%)	5 (3.2%)
	80才以上	5 (0.9%)	4 (1.1%)	1 (0.4%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)
性別	男性	250 (43.4%)	158 (45.3%)	92 (40.5%)	123 (37.6%)	79 (51.3%)
	女性	326 (56.6%)	191 (54.7%)	135 (59.5%)	204 (63.4%)	75 (48.7%)
医療機関	がんセンター	85 (14.8%)	45 (12.9%)	40 (17.6%)	37 (11.3%)	37 (24.0%)
	大学病院	164 (28.5%)	86 (24.6%)	78 (34.4%)	91 (27.8%)	46 (29.9%)
	公立病院	176 (30.6%)	113 (32.4%)	63 (27.8%)	106 (32.4%)	41 (26.6%)
	医院、クリニック等	114 (19.8%)	83 (23.8%)	31 (13.7%)	71 (21.7%)	27 (17.5%)
	通院はしていない	29 (5.0%)	17 (4.9%)	12 (5.3%)	17 (5.2%)	1 (0.6%)
	わからない	8 (1.4%)	5 (1.4%)	3 (1.3%)	5 (1.5%)	2 (1.3%)
がん種	乳がん	123 (21.4%)	—	—	93 (28.4%)	19 (12.3%)
	肺がん	91 (15.8%)	—	—	30 (9.2%)	58 (37.7%)
	大腸がん	64 (11.1%)	—	—	41 (12.5%)	18 (11.7%)
	前立腺がん	41 (7.1%)	—	—	25 (7.6%)	3 (1.9%)
	胃がん	36 (6.3%)	—	—	28 (8.6%)	5 (3.2%)
	5大がん以外	221 (38.4%)	—	—	115 (35.2%)	51 (33.1%)
ステージ	ステージI	130 (22.6%)	78 (22.3%)	52 (22.9%)	—	—
	ステージII	97 (16.8%)	73 (20.9%)	24 (10.6%)	—	—
	ステージIII	100 (17.4%)	61 (17.5%)	39 (17.2%)	—	—
	ステージIV	154 (26.7%)	103 (29.5%)	51 (22.5%)	—	—
	区分なし、わからない	95 (16.5%)	34 (9.7%)	61 (26.9%)	—	—



A)ほとんどの項目において、5大がんと5大がん以外、ステージ1～3とステージ4との差は認められなかった。B)ステージごとおよそ均等に回答された。95名がステージが存在しない、わからないと回答した。C-1, 2)37種のがん種から回答あった。罹患者数と相関がある回答ではない、

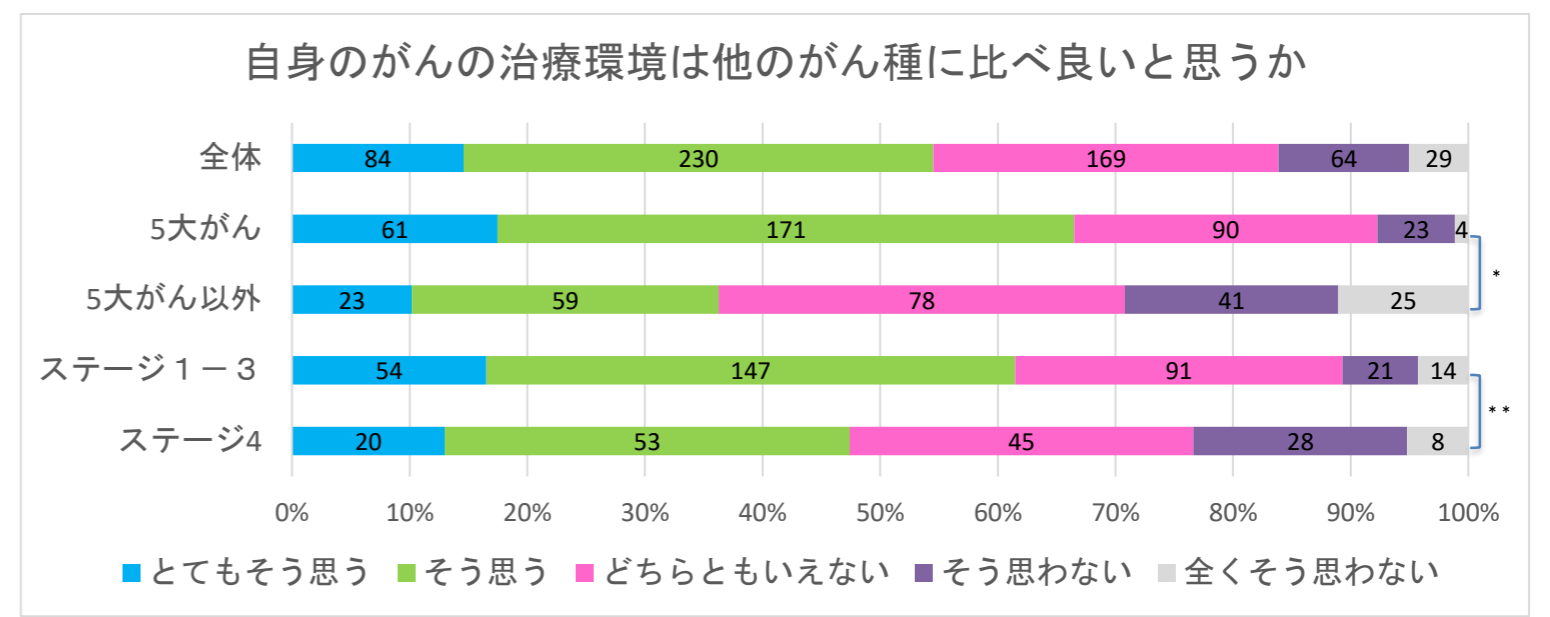
結果2. がん患者の情報に対する認識



5大がんと5大がん以外においては差が認められなかったが、ステージ1~3と比べステージ4において治療前の医師の説明が不十分と感じていた。

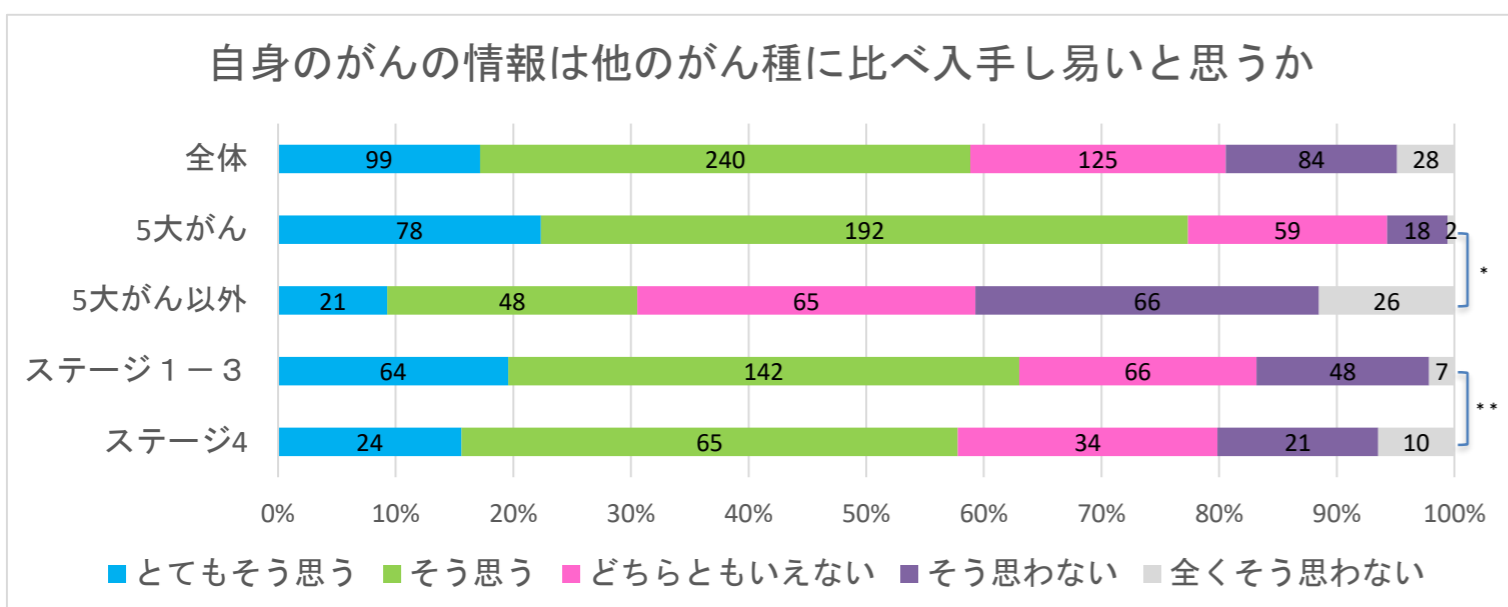
(* p=0.178 ** p=0.0059)

結果3. がん治療環境に対する認識



5大がん以外では治療環境が良くないと感じており、ステージ4においてもその傾向が見られる。

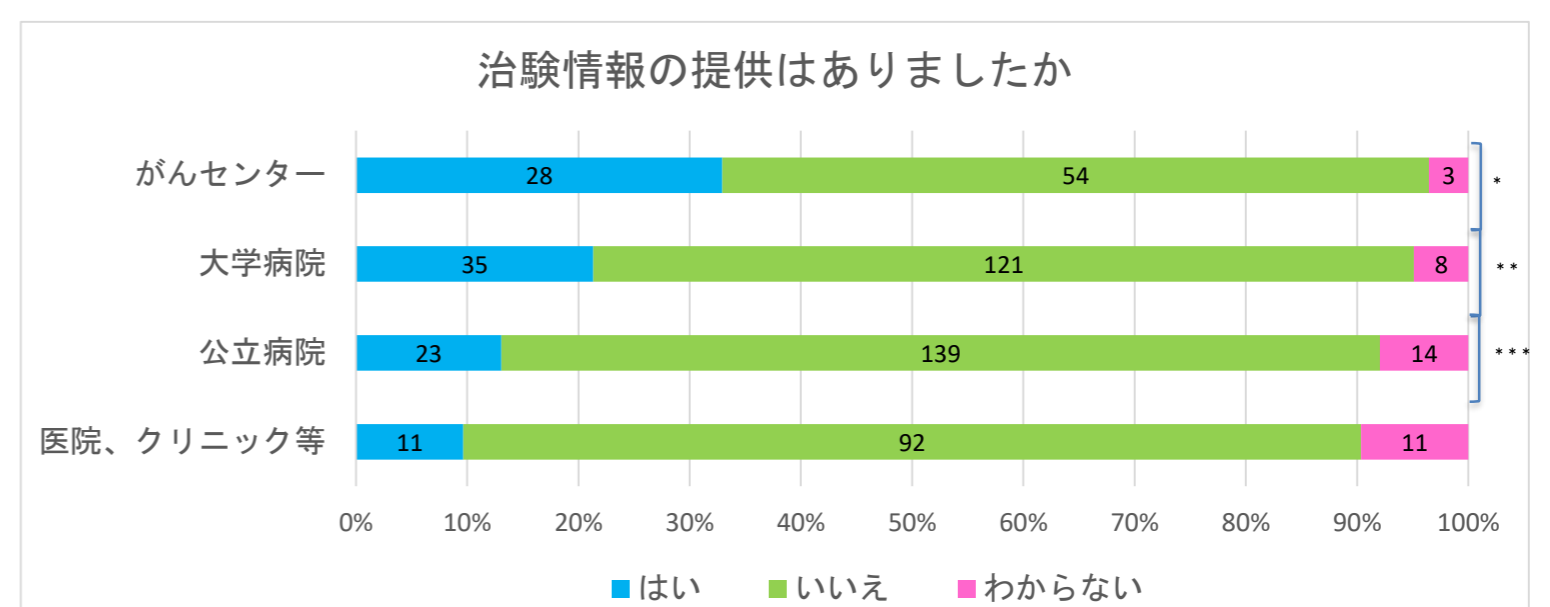
(* p<0.0001 ** p=0.056)



5大がん以外ではがん情報を入手するのが難しいと感じている一方、ステージ1~3とステージ4には差が認められなかった。

(* p<0.0001 ** p=0.496)

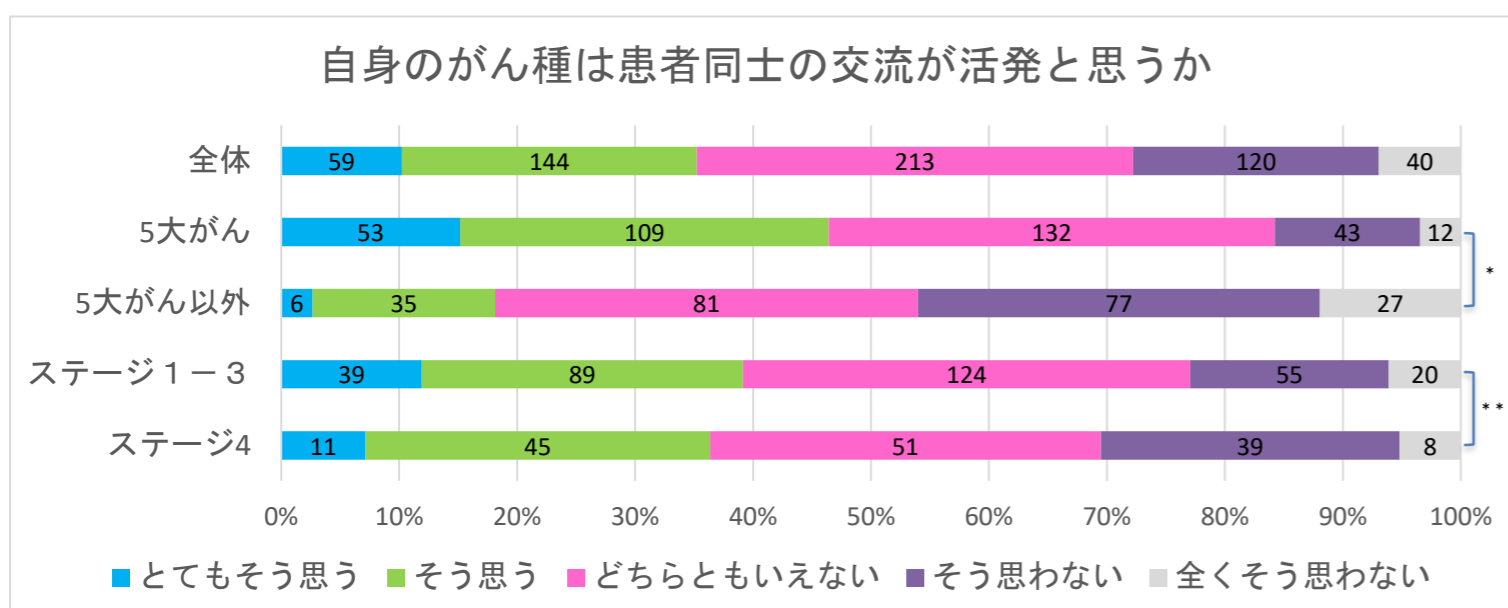
結果4. 医療機関の治験情報に関する実態



がんセンター、大学病院、公立病院、医院/クリニックの順で、治験情報の提供は減少する傾向がみられた。

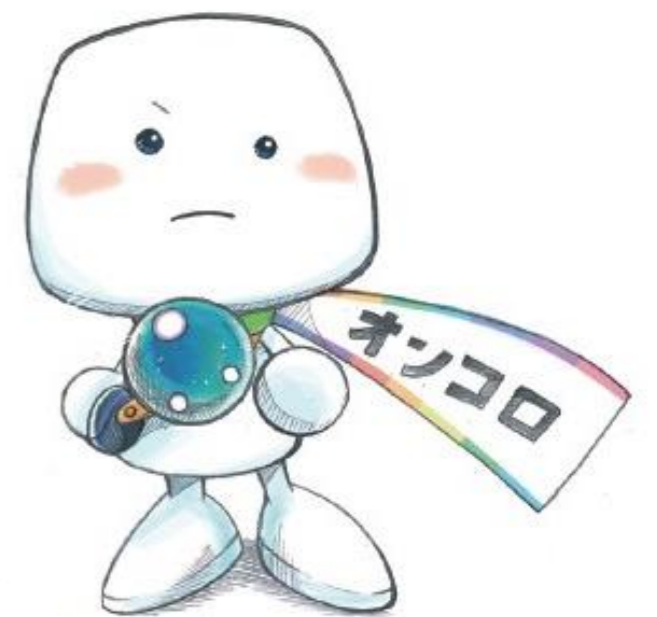
(* p=0.052 ** p=0.057 *** p=0.403)

なお、5大がんと5大がん以外、ステージ1~3とステージ4において、差はみとめられない。(データ揭示せず)



5大がん以外では患者同士の交流が活発化されていないと感じている一方、ステージ1~3とステージ4には差が認められなかった。

(* p<0.0001 ** p=0.649)



考察

- ・罹患者数が少ないがん種の患者は情報を取得しづらいと感じている。
- ・進行がん患者は情報を取得し難いと感じていなかったが、治療前の医師からの情報提供は不十分と感じており、さらに治療環境は良くないと感じている傾向がみられた。
- ・医療機関によって、治験情報へのアクセスに差が認められたが、罹患者数やステージによる差はなかった。
- ・本結果は、今回実施した1,385名の調査の一部であり、取得したデータは様々な解析が可能になっているため、様々な角度から解析を進め、新たな情報取得の実態を見いだしていきたい。(共同研究者募集中)

問い合わせ先

株式会社クロエ
希少疾患・オンコロジー統括グループ 可知 健太
Mail kachi@croee.com Tell 03-5953-2018

